

平成21年度第3回宇治市地域福祉推進委員会 会議録

日時	平成22年1月28日(木)午後2時～
場所	宇治市役所8階 大会議室
参加者	<p>委員: 井岡委員長、加藤委員、奥西委員、羽野委員、浜根委員、迫委員、松井委員、杉本委員、池田委員、岡田委員、白谷委員、小山委員、根岸委員、白数委員、小松委員、谷崎委員、原委員、榊村委員、酒井作業部会長 山本委員、佐藤委員(欠席委員: 岡野委員、大石委員、河淵委員、原田委員、森委員)</p> <p>事務局: 田中健康福祉部長、中島地域福祉室長、松本地域援護係長、堀江主任 傍聴者: なし</p>
委員長	<p>【開会】</p> <p>配付資料の確認(事務局)</p> <p>委員長あいさつ(委員長)</p> <p>出欠等の報告(委員長) ・都合により5名が欠席</p> <p>みなさん、こんにちは。 大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。第3回地域福祉推進委員会でございますが、第2次の計画策定に向けて着々と準備を進めていただいているわけですが、特に作業部会、またくらしと地域福祉に関するアンケートについて報告をしていただいて、論議を進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速ではございますが、次第に従いまして、進行させていただきたいと思ます。</p> <p>次第3になりますが、「次期計画策定に向けた取り組みについて」の で「宇治市地域福祉推進委員会計画策定作業部会について」事務局より説明を願います。</p>
事務局	<p>よろしくお願いいたします。着席させていただいて、説明させていただきます。失礼いたします。</p> <p>それでは、次第3の の「計画策定作業部会」ということで、先日1月15日に第1回目の作業部会を開催させていただきましたので、その中身を中心に、ご報告、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、資料1をご覧ください。資料1の1ページに作業部会の委員名簿を掲載させていただいております。前回、昨年10月の第2回の推進委員会におきまして、作業部会の設置についてご了承いただきました。その後、事務局の方で、作業部会の委員の方々に、ご就任をお願いいたしまして、そちら(資料の委員名簿を指して)に記載させていただいております7名の委員にご就任いただきました。</p> <p>前回もこの推進委員会でご報告させていただきましたときに、ご意見いただいております</p>

事務局	<p>とおり、やはり市民公募委員につきましては、複数であるほうが望ましいというご意見もいただいておりますので、市民公募委員の中からお二人にご就任をお願いしております。お一人は、前回の計画策定のコア会議のメンバーとして携わっていただいております、小松委員にご就任をお願いいたしました。それからお一方は、学区福祉委員でもあり、また地域懇談会の方で、ファシリテーターとしてご協力いただいております、地域協働コーディネーターでもあり、市民公募委員でもあり、ということで、いろいろな立場からのご意見をいただけるということもあまして、原委員に作業部会の委員としてご就任いただいております。</p> <p>それでは、次に2ページをご覧ください。</p> <p>1月15日に開催させていただきました作業部会の概要につきまして、ご報告させていただきます。</p> <p>まず第1回目ということで、健康福祉部長より委嘱状の交付から始めさせていただきました。自己紹介をしていただいた後、まず委員の皆様の互選により、部会長を酒井委員にお願いをすることになり、本日、酒井部会長にも推進委員会にご出席いただいております。</p> <p>その後、職務代理ということで、本日都合によりご欠席されておりますけれども、社会福祉協議会の岡野委員にお願いしております。</p> <p>それから、作業部会におきまして、議題の中心にさせていただきましたのは、「現行計画の成果と課題の整理の手法について」ということで、ご議論いただいて検討いただきました。2ページ真ん中あたりに、とさせていただきます、<b>「住民による自己評価について」</b>についてですが、これは地域懇談会のまとめのご報告をさせていただきました。こちらは、平成17年度から14小学校区で開催させていただいております、「いきいき福祉 ふれあいのつどい」で出されましたたくさんの意見の中から、どの地域にも共通している意見ということで、資料でご報告させていただきました。</p> <p>それから <b>「内部評価の結果報告」</b>ということで、行政内部の自己評価ということで、その部分につきまして取りまとめが終わってございましたので、結果報告をさせていただきました。そうしましたら、次に資料2をご覧ください。</p> <p>こちらには、成果の課題の整理手法ということで、この資料2の最初のページにつきましては、前回10月の推進委員会の中でもお示しをさせていただいた図ということになります。この中で、<b>「住民による自己評価という部分、それから</b> で、この後にご報告もさせていただきますけれども、アンケートの部分での評価、<b>「推進のめやす」</b>に掲載されている事業について、その進捗状況を自己評価として資料でお示したということです。</p> <p>資料2を1ページ捲っていただきますと、「地域懇談会のまとめ」の資料として掲載させていただいております。</p> <p>その上の部分に、データを載せております。平成20年度までのデータになりますけれども、14の小学校区におきまして懇談会を開催させていただきました。合計31回の懇談会で、延べ691人の方にご参加していただいたということです。その下に、これまでの地域懇談会で出された意見ということで掲載させていただいております。公共施設であるとか、道路であるとか、ハードに関する意見が一番上にあります。それから<b>「地域での生活について」</b>、「地域での福祉活動について」の3つに分類させていただき、意見の取りまとめをさせていただきました。</p> <p>一番上の公共施設等に関する意見ですが、やはり多く出されておりましたのは、「買い物、市役所を含めた公共施設等へ行くのに、バスがない、交通手段がない」ということに対するご意見がたくさん出されておりました。</p> <p>他は、「集会所が狭くて利用しにくい」、「気軽に集まれる公共施設そのものがない」ということで、施設に対するご意見が出されておりました。</p>
-----	--

事務局	<p>そして、歩道等、道路に関するご意見がたくさん出されておりました。これらは、どこでも共通する意見ということです。</p> <p>次に、「地域での生活について」ですが、「新興の住宅地やマンションの方との関わりが少ない」ということや、「若い世代の参加が少ない」とか、「高齢者が集えるような場所がもっと欲しい」という意見がどの地域でも出されておりました。</p> <p>それから、「町内会・自治会の問題ですが、加入者が減っている」、「脱退される方が多くなってきている」、「町内会自体がそもそもない」ということもご意見として伺っています。</p> <p>また、大きなことで、「個人情報の保護が、何をすることも壁になってしまう」ということで、「名簿や地図が作れない」ということをおっしゃっておりました。</p> <p>それから、一番下になりますが、「地域での福祉活動について」ということで、学区福祉委員の年齢が高くなってきている、高齢化が進んできているということです。それに関連して「若い方に学区福祉委員になってもらいたい」ということもご意見にありました。また、福祉活動の部分についても、「個人情報」が大きな壁になっているということでした。</p> <p>それから、「地域で集まりがある場合、どこに参加しても顔ぶれが固定されてしまっている」ということで、新しい参加者を獲得していくことを、これからの課題ということで考えておられました。</p> <p>こちらに出しております意見は、後ほどご説明させていただきますアンケートでも、同じような意見が出されておりましたので、どの地域でも共通している大きな問題ということで、作業部会の方でも、資料に基づきましてご説明させていただきました。</p> <p>それから、作業部会において2つ目にご報告させていただきましたのは、「宇治市地域福祉計画の具体的な取り組みの達成状況に対する内部評価」ということで、作業部会には、行政内部での事業評価の取りまとめが終わっておりましたので、その部分につきましてご報告させていただきました。</p> <p>内部評価の表紙の次のページになりますが、説明を掲載させていただいております。これまでこの推進委員会でも年2回ご報告させていただきました、「地域福祉推進のプログラム〈推進のめやす〉」に、地域福祉の視点をもって実施されている行政の事業の位置づけをしておりましたので、その事業の進捗状況の把握をして、行政内部の進行管理を行ってきたということでございます。今回行政内部の自己評価を行うにあたりまして、評価の基準をどのようにするのかというところで、3に「(1)評価基準」を掲載しております。(宇治市地域福祉)計画に関連する事業を実施することにより、計画に位置づけられた“具体的な取り組み”、これが合計57項目ございますが、これがどの程度達成できたかということ、それぞれの担当課において自己評価ということで、「A」から「E」までの5段階評価で評価を依頼しました。最終的にはひとつの取り組みに対しまして、行政の事業が複数位置づけられている場合がありますので、その場合は、各自己評価を点数化しまして、平均点を出しまして、それを最終的な取り組みに対する総合評価ということで、評価させていただいております。</p> <p>具体的に見ていただきますので、まずは5ページをご覧ください。</p> <p>地域福祉計画に5つあるプログラムのうちの、1つ目「安心して暮らせるまちづくり」という部分の「(2)こころとまち全体のバリアフリーを実現します」という項目です。この「こころとまち全体のバリアフリーを実現」するために、「交通、道路などのバリアフリーの実現を図り、すべての人が安全で安心して移動できる環境を整えていきます」という取り組みを掲げております。この“具体的な取り組み”を達成するために、各課において実施している事業が、その下に5つ位置づけさせていただいております。</p> <p>この5つの事業について、各担当課に自己評価を依頼いたしました。レイアウトの関係</p>
-----	---

<p>事務局</p>	<p>上、少し小さな字になり申し訳ありませんが、それぞれ「評価」と「評価に対する説明」ということで掲載させていただいております。</p> <p>その5つの事業の評価は、上から「B」評価が2事業、「C」評価が3事業ということで、これを点数化しまして、「B」評価ですと4点、「C」評価ですと3点ということで、その合計点の平均点が「総合評価(行政)」ということで、その右側に平均点を出しております。その平均点が「3.4」です。その「3.4」を、「A」から「E」の5段階評価で改めて直すと、この評価は「C」評価ということで、全体の評価として自己評価させていただいております。その“具体的な取り組み”が全部で56項目あるということです。</p> <p>次に13ページをご覧ください。</p> <p>「A」から「E」の5段階評価ということでご説明させていただいておりますけれども、もう一つ、行政の事業の中で「完了」という評価をさせていただいている事業がございます。</p> <p>計画の策定事業などにつきましては、「いつまでに計画を策定します」というのが事業の目標になっています。</p> <p>13ページの上から2つ目の11番になりますが、建築指導課の「建築物耐震改修促進計画策定事業」です。こちらの事業は20年度中に策定を終えております。ですから、評価としては「完了」という評価で記載させていただいております。この「完了」の場合は、点数化せず、評価しております。そのため、「完了」は総合評価の点数の中には含まれておりません。</p> <p>そういう形で、“具体的な取り組み”の56項目すべてにつきまして、行政内部の自己評価をさせていただきました。これを作業部会の中でもご報告させていただきました。</p> <p>その&lt;推進のめやす&gt;には、行政の事業だけではなく、社会福祉協議会が実施されている事業、福祉サービス公社が実施されている事業、そして学区福祉委員会の方でもたくさん事業を実施されていますので、それらの事業も位置づけさせていただいております。行政以外に残るそれぞれの評価の仕方について、今回ご検討いただいたということです。</p> <p>資料が戻ってしまい申し訳ないですが、資料1の2ページのところに、白抜きの文字で「検討事項」とさせていただいております。社会福祉協議会、福祉サービス公社、そして学区福祉委員会、それぞれの自己評価の方法について検討していただいたということです。</p> <p>社会福祉協議会につきましては、「自己評価するという点については非常に意味があることだ」というように言っております。ただ、評価の方法につきましては、予算があって計画的に進められる事業が多い行政とは、少し異なる評価の仕方になるのではないかとご意見、それから社会福祉協議会の事業は、継続的にずっと社会福祉協議会が進めていくものばかりではなく、その事業を発展的に解消させていく場合や、他の事業に変えて流動性を持たせるものもあり、それをどのように評価するのか、というご意見もいただきました。結果的には、社会福祉協議会も、あくまで事業を実施している主体として、社会福祉協議会としての自己評価ということで、評価作業をお願いすることになりました。</p> <p>その基準としましては、社会福祉協議会で実施されている達成目標に対する達成度をめやすに評価をお願いすることになりました。先ほど行政の内部評価(の説明)で見ただいた資料のような形で、現在社会福祉協議会で、自己評価の作業を進めていただいております。</p> <p>それから、資料2の3ページのところですが、一番上の福祉サービス公社の自己評価の手法について意見交換し、検討していただきました。</p> <p>先ほどの社会福祉協議会と同じように、福祉サービス公社でもあくまでも自己評価ということであれば可能だということです。ただ、自己評価となると、サービスを受ける側の住民の評価とは少し差が出るのではないかとご意見として出ておりました。また、「完了」と</p>
------------	--

事務局	<p>いう表現ですが、福祉サービス公社の事業の中では「完了」という評価はないということも、ご意見として出されておりました。</p> <p>そういった意見も踏まえまして、最終的には作業部会の中で、確かにサービスの受け手、住民との評価とは、多少離れてしまうことは想定されるのですが、今回は現行の計画の中で位置づけられております、5者の役割のそれぞれの立場での自己評価をお願いするということで、現在自己評価の作業をお願いしております。</p> <p>ただし、行政の計画の策定事業などとは違いまして、福祉サービス公社の事業につきましては、基本的に継続的に実施されていく事業ということですので、「完了」という評価はできないだろうということで、「A」から「E」の5段階評価の作業をお願いしております。</p> <p>社会福祉協議会、福祉サービス公社、いずれにしましても、自己評価だけがすべて計画に反映されるということではなく、次の計画を策定していくにあたって、今現在計画でできていること、できていないことについては、なぜできていないのかということ把握して、それがどのようにすれば改善されていくのかということを検討して、成果と課題を整理して、次の計画に反映させていくための材料として、あくまで自己評価をお願いするということで、作業をお願いしております。</p> <p>それから最後に、少し長い時間をかけて検討していただきましたのが学区福祉委員会の事業(の評価方法について)です。</p> <p>学区福祉委員会につきましても、自己評価というのはいいことだというご意見をいただきました。自己評価することで、よい点、悪い点、そして問題点、改善点、そういったものが見えてくるだろうということで、そういう意味では一度やってみるのもいいのではないかと、というご意見もありました。ただ、学区福祉委員会自体が、地域の立地条件、小学校校区の規模もさまざまですので、それによって活動の内容もさまざまです。そういった状況の中で、統一した評価というのはなかなか難しいだろうというご意見もいただきました。また、実際に評価をする場合に、誰が評価をするのか、22の学区福祉委員会がそれぞれ個別に評価をするのか、学区福祉委員会連絡協議会がまとめて評価をするのか、ということも問題として出されておりました。</p> <p>また、学区福祉委員会の事業自体の結果だけで判断して評価するものではなくて、その事業を実施するに至った経過、そういったものを含めて評価する必要があるのではないかと、ということも出ておりました。</p> <p>そういったことを考えると、事業の評価をお願いするというよりは、22学区の共通した課題を、アンケートのような形式で協力をお願いするほうがいいのではないかと、そしてまた、個別の学区福祉委員会、22学区それぞれで評価していただくという作業とは別に、その取りまとめの組織である学区福祉委員会連絡協議会も評価をしていただく必要があるのではないかと、ということで意見が出されておりました。</p> <p>ですから結論としましては、いまご説明させていただいた行政、社会福祉協議会、福祉サービス公社の3者とは違う形でのアプローチをするべきだという結論を出していただきました。</p> <p>学区福祉委員会につきましては、その活動、それから学区福祉委員会そのものを次の計画に位置づけして、学区福祉委員会の活性化を図っていく、そういう方策を探していくために、いまの学区福祉委員会の現状と課題を把握するということを目的に、アンケートの形式で協力をお願いしようということです。その様式につきましては、現在作成している最中ですが、以前に社会福祉協議会で作成された学区福祉委員会の自己診断シートというのがあるということをお伺いしております。それから活動状況の一覧というものもあるということもお伺いしておりますから、そういったものを少しアレンジして、また新たに作成することを考えております。</p>
-----	--

事務局	<p>作業部会につきましては、以上のような形で、現行の計画の成果と課題の整理手法についてご議論いただいたということです。</p> <p>この作業部会中でも、アンケートにつきましては、アンケートの中間報告をさせていただいていますが、こちらにつきましては、次第にも挙げさせていただいておりますので、その中で後ほど詳しくご説明させていただきたいと思っております。</p> <p>の説明につきましては、以上になります。</p>
委員長	<p>はい。詳しい説明ありがとうございました。</p> <p>計画の策定作業部会を設置していただいたということは、大変心強いことでもあります。前回、第1期の計画策定では、フォーマルなものではなく、コア会議という形で取り組んで参りましたけれども、今回は正式に作業部会ということで、早速中身の濃いご議論をしていただいておりますので、大変感謝を申し上げたいと思っております。</p> <p>なお、せっかくの機会ですので、事務局の方から、作業部会のメンバー全員についてご紹介いただき、その後は、作業部会長の酒井先生もお越しですので、一言ご挨拶をいただきたいと思っております。</p> <p>(事務局に対して)まずは、全員のお名前をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは資料1の委員名簿に基づきましてご紹介させていただきます。</p> <p>まず、学識経験者ということで、これまで17年度から実施してきました地域懇談会に、スーパーバイザー、相談役という形でずっと関わっていただいております、地域懇談会の状況も見ていただいております、京都ノートルダム女子大学の酒井 久美子先生にご就任いただきました。</p>
作業部会長	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>それから、この計画の中で位置づけをされております5者の役割それぞれからご就任いただいております。</p> <p>まず、宇治市民生児童委員協議会の奥西 隆三委員です。</p>
作業部会委員	<p>奥西でございます。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして、宇治市福祉サービス公社から池田 正彦委員です。</p>
作業部会委員	<p>池田でございます。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>それから、本日都合によりご欠席されておりますけれども、宇治市社会福祉協議会の岡野 英一委員です。</p> <p>そして、先ほどご説明させていただきました、市民公募委員から、小松 一子委員です。 (小松委員、全員に対して一礼)</p>
事務局	<p>もうお一方、原 保彦委員です。</p>

作業部会委員	原でございます。よろしく申し上げます。
事務局	そして市職員、行政の中からということで、中島 政治地域福祉課長でございます。 (中島室長、全員に一礼)
	以上、7名の委員の方にご就任いただいております。
委員長	ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。 代表いたしまして、酒井先生の方から、抱負を述べていただきたいと思います。
作業部会長	失礼いたします。 京都ノートルダム女子大学の酒井と申します。よろしく願いいたします。 先ほど事務局からの紹介の中でありましたけれども、平成17年度から開始されました「いきいき福祉 ふれあいのつどい」で、各学区の取り組みについて関わらせていただきまして、地域のみなさんからのいろいろなご意見も私なりに聞かせていただいております。私は宇治市民ではございませんので、いろいろなことが分からない状況ではございますけれども、地域の方との交流の中で、いろいろなご意見を聞かせていただいたことを参考にしながら、地域の計画に、みなさんのご意見を反映できるように思っております。その中にも、作業部会のみなさんと一緒に検討させていただいて、よりよい地域福祉計画をつくっていくことができると思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
	(委員から拍手)
委員長	はい。ありがとうございました。 どうぞよろしく願いいたします。  それでは、作業部会の仕組み、その中身として、行政内部の評価についてご報告いただきました。これについて、みなさんの方からご質問、ご意見等ございましたら、どうぞ出していきたいと思いますが。いかがでしょうか。 行政内部の自己評価について、詳しく出ております。いかがでしょう。 また、作業部会への要望と申しますか、提案等もございましたら、どうぞこの機会に出していただければと思います。いかがでしょうか。
委員	では、私から。
委員長	どうぞ。
委員	私は、この中で特に学区福祉委員会、社会福祉協議会や福祉サービス公社、行政の評価につきましては、それぞれで評価されるということになると思いますが、最後に説明されましたように学区福祉委員会は、少し立場が違いますので、ここに書かれていますように、いろいろな意見が出てくるわけです。 基本的に違いますのは、22学区の立地条件、規模がそれぞれ違うということと、実施していることも若干違います。それぞれの学区によって特色を出しながら実施されているということです。その辺りのところを考慮しながら、今後進めていきたいと考えているわけです。

委員	<p>要は、私たちとしては、アンケートに対するたたき台をまず作りまして、当然みなさんに諮らせていただきます。そして学区福祉委員会の上の組織として、学区福祉委員会連絡協議会にまず声をかけさせていただいて検討していただきます。そして、学区福祉委員会には、次に22学区の代表者会議という組織がありますので、そういったところにも声をかけて、それぞれに納得していただいて、アンケートをとらせていただこうかなと考えております。急にアンケートだけを出してしまいますと、こんなことを言うてはいけませんが、「なんだ。」ということになります。そういった過程を経ながら、今回はアンケートを実施していきたいと考えております。</p> <p>どうぞみなさん、「いや、そういったことはしなくてもよい。」というようなご意見等ございましたら、参考までに聞かせていただけたらと思います。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、(学区福祉委員会を代表して)委員から何かございましたらお出しただければと思います。</p>
委員	<p>いま委員がおっしゃいましたようなこととまったく一緒です。また、何回か述べさせていただいたと思いますが、学区福祉委員会というのは、その地域で芽生えて、その地域でリーダーシップをとってやっていただいている、そういう組織でございますので、共通の課題と個別の課題とは別のことがあると思います。(さきほどご発言された)委員と調整をとりまして、前向きに検討していきたいと考えております。</p>
委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>他に、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>自己評価というのは、非常にしんどい作業でございまして、これを、市を中心にしっかり取り組んでいただいたというのは、よかったことだと思いますし、作業部会でこれについて検討していただいているというのもありがたいことだと思います。</p> <p>学区福祉委員会の方から特に出ていることですが、効果を測定する物差しや目盛をどこに置くかということ、ここが自己評価の大変難しいところでございます。その辺りが少し行政と違うところかなと思いますので、効果測定の物差しと目盛、インデックスとインジケータをどうするか、一言で申し上げると、どういう地域をつかっていきたいのかという、地域をみんなで目指していくのかというあたりを、常にフィードバックして評価というのがなされていくのかなと思いました。</p> <p>いずれにしても、大いに作業部会に期待をしております。</p> <p>無責任なことを申し上げるのはよくないですが、私もいろいろご意見を申し上げたいと思います。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>他に、ご意見、ご質問がありましたら、どうぞ。</p>



委員	<p>資料2の13ページになりますが、「要配慮者情報管理事業」がありますけれども、要配慮者は大体4,000人から6,000人いらっしゃるということですが、私たちは障害者団体ですけれども、そういうようなところの数字も入っているのかどうかということ、そういったアンケートの内容を一切知らないのですが、そういうあたりはどうかと思いました。</p> <p>(事務局に対して)いかがでしょう。</p>
事務局	<p>ここ(資料2の13ページ「要配慮者情報管理事業」の「評価に対する説明」を指して)にも書いてございますように、登録者数が548人ということでございます。</p> <p>今回(昨年)12月に、危機管理課からお配りしております「要援護者避難支援計画」というものを8,000か9,000ほどお送りさせていただいたわけですが、その方以外にも、ここでは、火事等いろいろなことが起こったときに救急車を含めまして、要配慮ということで、その関係課に連絡を入れて、運んでいくというシステムになります。先日起りました大久保の小火のときにも、新聞等にも書いていただいているのですが、手話通訳が必要だということで、関係課に連絡がいきまして、地元の手話のできる人をいち早く対応していただいたということがございます。ただ、そういうことができるのは、事前に登録の申請をしていただかないといけないということがあって、消防の方で困っていますのは、登録したけれども、市外に転出されてもそのまま(情報が)残っている場合もありますので、そういう整理、メンテナンスが難しいということです。</p>
委員長	<p>(委員に対して)よろしいでしょうか。</p> <p>(委員、了承)</p> <p>はい、それではその他どうぞ。</p>
委員	<p>JR山陰線の園部までが、3月までに複線化が完了します。その次の段階として、ぜひともJR奈良線の複線化を実現していただければと思います。JR西日本にお願いにいったことがあります。ぜひとも奈良線の複線化、それに伴って、JR宇治駅周辺の整備、そういったものもぜひ考えていただかないといけないと思います。</p> <p>いつになるかわかりませんが、奈良線が複線化できたらいいなと思います。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。(他の委員に対して)よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、私が教えていただきたいのですが、単純なことです。</p> <p>先ほど(事務局からの説明で“具体的な取り組み”)56の事業数といわれましたが、資料でみますと112となっていますが、重複しているということでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほど56項目の“具体的な取り組み”というご説明をさせていただきましたけれども、行政の内部評価をご説明させていただきました資料をご覧ください。資料2を3ページ捲っていただいたところになりますが、「目次」ということで、少し小さな字になりますが、全体の事業、プログラムを載せさせていただいている見開きのページがございます。</p>

事務局	<p>先ほど「56」と申し上げましたのは、そこに位置づけさせています事業ということではなく、その上に1から5の5つのプログラムがあります。その下に(例えば)1の「安心して暮らせるまちづくり」の中に(1)から(5)までがございます。その下にさらに、 、  というように番号をつけさせていただいております。これが“具体的な取り組み”ということで、先ほどご説明させていただいた部分になります。ですので、丸のついている数字をすべてカウントしますと56項目になります。これが“具体的な取り組み”が56項目であるというご説明をさせていただいた部分になります。</p>
委員長	<p>はい。わかりました。 黒丸のついているところですね。</p>
事務局	<p>黒丸のついているところではなく、1のところ「安心して暮らせるまちづくり」というのがあります。その下に(1)、(2)という数字がございます。 そのもう一つ下に、 、  という数字をつけさせていただいております。ここに“具体的な取り組み”というのがそれぞれ掲載されています。これは計画書にも、プログラムの中に位置づけさせていただいております。その“具体的な取り組み”を達成するために、宇治市の事業112の事業を位置づけております。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 それでは他にございますか。</p> <p>(他に質問、意見等がないことを確認)</p> <p>それでは他になければ、(次第3の)「『くらしと地域福祉に関するアンケート』中間報告について」進めていきます。 これについて事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>そうしましたら、次第3「次期計画策定に向けた取り組みについて」の中の、昨年11月に実施しました『くらしと地域福祉に関するアンケート』について、いまのところ中間報告という形のご報告になりますが、その部分についてご説明させていただきます。 まず次第に、今回の(アンケートの)データを載せさせていただいているとおり、「調査票配布数」は3,000件です。前回アンケートを平成15年に実施していますが、その時と同じ配布数になります。 回答していただいた数、「有効回収数」ですが、こちらにつきましては、1,545件です。一応目標、めやすとしておりました50%を若干超えたということでございます。ちなみに前回は、同じ3,000件をお配りして、返ってきましたのが1,205件でございます。 「(有効)回収率」につきましては今回は51.5%、前回は40.2%で、11%程度の回収率のアップということです。 そして、アンケートに回答していただいた中で、「自由記述」の欄がございまして、その「自由記述」の回答数は545件の回答をいただいております。ちなみに前回の「自由記述」の回答数が445件ということですので、こちらの部分につきましても、100件程度多く「自由記述」を書いていただいているということになります。</p> <p>それでは続きまして、資料3に基づきまして、ご説明、ご報告をさせていただきたいと思いま</p>

事務局	<p>す。</p> <p>まず、上から順番にですが、アンケートの結果報告書が分厚いので、アンケートの結果報告書の前に、 から ページまでつけさせていただいた「要旨」、概略をつけさせていただいておりますので、こちらに沿った形でご報告をさせていただきます。</p> <p>まず、調査方法ですが、「昨年10月1日現在で、住民登録又は外国人登録されている満18歳以上の宇治市民」の方です。この「18歳以上」といいますのは、前回と同じ条件ということで抽出させていただきました。</p> <p>配布数は3,000で、住民基本台帳から無作為抽出しました。</p> <p>調査の期間ですが、昨年10月27日に(第2回の)推進委員会の中でご報告させていただいた後、11月11日から27日までを調査期間としてアンケートを実施させていただきました。</p> <p>配布、回収の結果につきましては、先ほどご報告させていただきましたとおりでございます。</p> <p>集計結果ですが、まず、「回答者の属性」についてですが、「性別」の部分は、前回とそんなに大きく割合が変わっていない状態で、女性が54.9%、男性が42.7%ということで、ほぼ前回と同レベルの割合で回答していただきました。</p> <p>次に「年齢」ですが、やはり60代の方が最も多く26.5%、これは前回と同様です。その中で70代の方が15.2%で、前回12.3%ということで、前回は30代の方からの回答が多かったのですが、今回70代の方からの回答が多くなっているということです。</p> <p>それから、「職業」の部分ですが、その中で「職業に就いていない」という項目を設定させていただいたのですが、そこにチェックをしていただいた方は47.5%いらっしゃいました。その内訳ですが、やはり「家事専業」の方が一番多くて6割近く、また「失業中」の方というのが、経済状況等もありますので、もう少し多いのではないかと予想しておりましたが、前回よりも減少したということになっております。</p> <p>それから次に「家族構成」ですが、一番多かったのが、「本人と(その)配偶者」のご夫婦お二人でお暮らしの方からの回答、次に「本人・配偶者・子供世帯」ということで、27.8%ということになっております。「本人だけ(一人暮らし)」の方というのは、全体の8%いらっしゃいました。人数でいいますと、「一人暮らし」の方は124人いらっしゃったのですが、その中で「一人暮らし高齢者」の方は72人いらっしゃいました。前回がどうだったのかといいますと、41人の方が「一人暮らし高齢者」の方ということでした。ですから31人増えているということになります。</p> <p>やはり一人暮らし高齢者の方の割合が増えてきているということ、それから、「本人・配偶者・子供世帯」というのが、前は38.3%あったのですが、それが10%以上今回は減っているということです。その代わりに、「本人・配偶者」というのが7%程度増えておりますので、子どもがいらっしゃった世帯が独立をされて、ご夫婦お二人暮らしになったという状況が出てきているということです。</p> <p>次に ページですが、「分析と傾向」ということで、それぞれの設問に従って、集計、それから分析をさせていただいております。</p> <p>まず、【問8】で、「生活環境」についてお伺いした設問になりますが、「高齢者の憩いの場」ということで、前回(の推進委員会)でご指摘いただきましたとおり、「高齢者」と「子ども」の項目を二つに分けさせていただきました。「高齢者の憩いの場」ということで、高齢者の部分を単独で質問させていただいております。</p> <p>この中で「本人だけ(一人暮らし)」の方の評価は、否定的な評価(「悪い」、「大変悪い」)を、肯定的評価が上回っているという結果になりました。</p>
-----	--

事務局	<p>ただ、ご夫婦お二人暮らしの場合の評価は、否定的な評価が肯定的評価を上回っているという評価になっております。</p> <p>それから次に「交通の利便性」の部分ですが、懇談会の中でもたくさん意見が出ておりました。「どこに行くにも手段がない」というようなことが出ておりましたので、こちらに掲載させていただきました。ただ、「交通の利便性」については肯定的評価をされる方は65%程度いらっしゃいます。ですから6割以上になるのですが、否定的評価の方は4人に1人いらっしゃるということです。地域別にみていると、3つの地域で否定的意見が4割以上という回答になりました。これが、御蔵山小学校区、大開小学校区、そして榎島小学校区、この3つの地域で否定的評価が4割以上ということですので、この中でも、御蔵山小学校区、榎島小学校区というのは、確かに交通の便が悪いということは意見として出ておりましたが、大開小学校区については、今回このアンケートで4割以上が否定的評価ということがわかりました。</p> <p>次に「公共施設の利用のしやすさ」ですが、こちらは2つに分かれた評価ということになりました。5つの地域で「大変良い」という評価がゼロということ、また否定的評価が5つの地域で4割を超えているという結果になりました。</p> <p>地域別で見ますと、5つの地域で「大変良い」という評価がゼロだったというのが、御蔵山、南部、大久保、伊勢田、北榎島の5つの小学校区では「公共施設が利用しにくい」という評価をされています。</p> <p>また、否定的評価が4割を超えた地域ですが、御蔵山、木幡、平盛、伊勢田、北榎島ということで、先ほどの「大変良い」という評価がなかった地域と同じ地域がいくつか入っています。そういう意味では、公共施設が近くにないとか、集会所の使いにくさを問題にされているような結果であると思われます。</p> <p>それから「地域の人たちの気風」という部分になりますが、肯定的評価をされる方が13%に増えているということです。今回が58%程度、前回は45%程度ということですので、「地域の人たちの気風」というのは非常によいという評価をされているようです。</p> <p>次に【問9】ですが、「日ごとの生活で不安に感じていること」についてお聞きしました。その中で、「老後・健康」というのは前回と同じく、1番、2番の不安要素ということではあったのですが、項目の中で「家族の看護、介護、介助に不安を感じる」方が5人に1人いらっしゃるということ、40代以上では概ね4人に1人は、「看護・介護・介助に不安を感じる」ということでした。</p> <p>ちなみに前回は15.9%ということでしたので、この部分でも若干割合が上がっています。ですから、地域活動等に参加をされない理由、要因というのが、こういったところにも表れているのではないかと思います。</p> <p>そして次に【問10】で、「暮らしや福祉に関する情報」をどういったところから入手されていますかというご意見をお聞きしております。</p> <p>その中でやはり一番多いのは、「市政だより」から入手するということが、72%で7割を超えております。年代別に見ても、どの世代でも半数以上は市政だよりから情報を得ている方が多かったです。</p> <p>あとは、前回に比べてインターネットによる情報収集が、約倍に増えているということで、特に50歳未満の年代の方については、概ね4人に1人がインターネットを利用している状況でした。</p> <p>またアンケートの自由記述の中でも、いろいろなことでの情報提供を望まれるというご意見が非常にたくさんありました。ですから、「自分も何か(活動)に参加したいというように思っているにもかかわらず情報が入ってきにくい」、「情報を発信していたとしても伝わっていない」というご意見もいただいております。</p>
-----	--

事務局	<p>次に【問11】ですが、「困りごとの相談をどなたにされますか」という質問です。民生委員の方、学区福祉委員の方への相談が、前回に比べて約半分になっているということ、同じく社会福祉協議会への相談も半減しているということです。社会福祉協議会につきましては、相談窓口等を開設されておりますので、そういったことの周知の方法も検討する必要があるのではないかと考えております。</p> <p>それから【問13】ですが、「地域での活動に参加されていますか」ということとお伺いしております。</p> <p>1つ目が「高齢者支援に関する活動」ということで、「現在参加している」方、「過去に参加していることがある」方の参加経験については8.6%、前回は8.4%ですので、1割に満たない数字になっています。</p> <p>今後の参加の意向についてお伺いしたところ、「(活動に)参加してみたい(継続も含む)」とおっしゃっていただいている方は22.8%、前回は36.1%ですので、こちらも少し落ち込んでいます。</p> <p>ただ、年齢別にみますと、20代の方の参加してみたいという意向が3割近くということで、若干高くなっているということです。</p> <p>次に「子育て支援に関する活動」ですが、こちらも参加経験等は10%に満たない数字にはなるのですが、ただ、こちらも20代、30代の方、まさに現在子育てをされている世代というのは、3割を超える方が「今後活動に参加してみたい」というように評価をされていました。</p> <p>次に「障害者支援に関する活動」についてですが、 ページです。</p> <p>先の2つの活動と同様ですが、参加経験は1割に満たないのですが、「今後(活動に)参加してみたい」という意見は17.2%、ただ「関心がない」という意見については、約3割程度です。前は5割近くということですので、20%近く減少しているということでした。ですから無関心という部分は減少しているというように理解しております。</p> <p>4番目が「町内会に関する活動」です。その前の3つの活動よりは参加経験は多くなっています。その中で、「今後町内会の活動に参加してみたい」というのは、男女別では、男性の方がより「町内会活動に参加してみたい」という意向を示された方が多かったです。男性で4人に1人は参加してみたい、女性では5人に1人くらいということになっております。</p> <p>それから地域活動の参加に関する質問の最後は「こども会に関する活動」です。</p> <p>こちらも4人に1人は参加経験があるということでした。先ほどの子育て支援と同じく、30代の方というのは「今後(活動に)参加してみたい」とお答えになった方が3割以上の回答をいただいております。</p> <p>それから【問13-1】です。先ほど「地域の活動に参加したことがない」項目に をつけられた方にお聞きした項目です。</p> <p>参加したことがない理由ですが、「仕事・家事・育児・介護などで忙しく、(活動に)参加することができない」という方が、約半数という結果が出ております。なかなかやはり、お仕事があったり、介護をされていたりということが、地域の活動の障害になっているのではないかとこの結果だと思われまます。</p> <p>ページの【問14】ですが、「学区福祉委員会」、「民生児童委員」、「社会福祉協議会」それぞれの認知度についてお聞きした項目です。</p> <p>こちらにつきましては、後ろの報告書をご覧くださいなのですが、まず「学区福祉委員会」につきましては、77ページをご覧ください。</p> <p>これが「学区福祉委員会」についてお聞きした集計結果ですが、「学区福祉委員会を知っており、活動に参加したり、事業を利用している」という方が117人いらっしゃいます。</p>
-----	--

事務局	<p>「(学区福祉委員会を)知っているが、活動に参加したことがない」という方が192人、「(学区福祉委員会の)名前を知っている程度」が536人ということで、ただ「知らない」という方が600人程度いらっしゃるという結果です。</p> <p>(資料を)捲っていただいて80ページになります。</p> <p>「(学区福祉委員会を)知っているけれども、活動に参加したことがない」という方に理由をお伺いしております。</p> <p>それが80ページの表になるのですが、「ア」の「日時や場所、内容などがわからないから」参加していない、「イ」で「一人では参加しづらいから」、「エ」で「会場に行く手段がないから」という方それぞれ何人がいらっしゃいます。いまの3つを足すと70人程度になりますが、これがクリアできれば、この方々には参加してもらえるのではないかと、というように解釈もできるかと思えます。これは、「民生児童委員」の部分でも、「社会福祉協議会」の部分でも同じような回答の方がいらっしゃいますので、そういった方を取り込んでいければ、事業や活動に参加していただける方が増えていくようなヒントがあるように思っております。</p> <p>次に81ページが「民生児童委員」についてお伺いしたところですが、こちらも「知っているが、事業を利用したことがない」方が253人いらっしゃいます。その方のそれぞれの理由がその右側の82ページにあります。</p> <p>「日時や場所、内容がわからない」という方、また「一人では参加しづらい」という方、「会場に行く手段がない」という方がおよそ110人程度いらっしゃいます。ですからそういった方を取り込んでいければいいのではないかと思います。</p> <p>そして「社会福祉協議会」につきましても83ページになりますが、239人が活動には参加したことがない(「知っているが、活動に参加したり、利用したことがない」とおっしゃっておりますけれども、それぞれ同じ理由で参加をされない方が107人いらっしゃいます。</p> <p>そういったところをクリアしていけるような取り組みを支援できたら、その活動に参加される方がもっと増えていくのではないかと考えております。</p> <p>先ほどのアンケートの要旨の ページの一番下、最後[問18]ですが、「人材の確保」の手法についてお伺いしている部分になります。</p> <p>この中で最も意見が多かったのが、「若い世代が気軽に地域福祉活動に参加できるようなさまざまなきっかけづくり」というのが52%で約半数がそのようにお答えになっています。それから次に「人材の育成、養成」という部分がありますが、あと多かったのが、「学校における福祉教育の充実による子どもの頃からの意識づけ」と回答される方が約45%いらっしゃいました。</p> <p>これにつきましては、「自由記述」でも、外国との比較をされて、もっと小さな時から福祉教育に取り組むべきだという方がかなりいらっしゃいました。</p> <p>ということで、要旨につきまして、長々と説明させていただき申し訳なかったのですが、いまのところ中間報告という形での報告になります。</p> <p>いま現在545あります「自由記述」を整理して、分類する作業を進めております。それは、地域福祉計画のどの部分に対する意見で、どういう評価なのか、その部分を整理していく中で見えてくる部分がたくさんあると思われまます。いまのところ、その作業をしている中で非常に多いのが、情報の発信を求めておられる方がかなりたくさん意見を書いておられます。情報を発信しているけれどもうまく伝わっていない、ですから「こういうボランティアを募集しています」ということが分かれば自分も参加してみたい、というご意見を書いていただいている方がかなりいらっしゃいます。</p> <p>それからもう一つは、「ボランティア等には参加したいけれどもきっかけがない」というご意見の方、その「きっかけをつくってほしい」というご意見がたくさんあります。</p>
-----	---

事務局	<p>そしてもう一つが、「ボランティア活動に気軽に参加したい」というご意見も非常に多かったように思います。</p> <p>ですから情報を正確に発信して、(情報)が伝わって、そしてきっかけをつくれて、気軽に参加できる仕組みがくれたら、そういった活動に参加していただける方が増えていくのではないかなという結果になっております。</p> <p>この結果報告書につきましては、もう少しアンケートを集計したコンサルタント業者とも内容を詰めていく必要があると考えております。最終的に内容を詰めさせていただいて、また作業部会の中でもご論議いただいて、最終アンケートの結果報告書の形になり次第、推進委員会の中でも、最終的な報告をさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上になります。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>アンケートの中間報告として、詳しく説明していただきました。</p> <p>大変興味深く、計画の策定に参考になる評価になっているようでございます。</p> <p>では、このアンケートの中身につきまして、みなさんの方からご質問なり、感想なり、出していきたいと思っております。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>大変興味深く説明を聞かせていただきました。</p> <p>まず1点目ですが、アンケート調査の(【問8】の「項目」の中の)上から4番目になりますが、「子どもの(遊び場)」のキーワードが私は気になっていますので、(アンケート結果報告書【暫定版】の)19ページの「高齢者の憩いの場」とありますが、(説明で)「子どもの(遊び場)」の部分についてはこれからで、まだ中間報告なので(分析ができていない)という意味なのでしょうか。</p> <p>2点目は、説明の中にもありましたけれども、子どもの支援と参加については大変少ないということでした。先ほどの行政の自己評価の子育て部門のところを見ていますと、単体の取り組みとしては「A」の取り組みがあったり、「B」の取り組みがあったりするのですが、しかし、総合的にアンケートから見たら、90%以上の方が参加していないというような実情がありますし、その辺りが、ひとつひとつではなくて、総合的にはこれからますます課題となるところではないかと思いました。</p> <p>併せて、心理的な負担感、忙しいとか、大変不況でもありますし、さまざまな暮らしにくさという状況がある中で、そういう活動に参加するというのが、「参加」という言葉がまたハードルになっているかもしれませんけれども、そういう取り組みがあったときに「参加」ではなくたぶん「活用する」、最初は「活用」があって、活用している間に、「ちょっとこちらも手伝って」というような声の掛け合いから、それが「活用」でありながら、実は実態としては「参加」になっている、というような結びつけ方というか、普段の暮らし、日常に負担感をお持ちの人たちには、心軽く何かができるような道筋になりはしないかなと思いつつ聞かせていただきました。以上です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>事務局から今の意見に対してよろしく願います。</p>

事務局	<p>先ほどご質問いただきました「高齢者の憩いの場」と「子どもの遊び場」という部分ですね、(アンケート)項目としては設定させていただいておりました、いまご説明させていただいておりました、「要旨」にはご説明させていただけなかったのですけれども、「(アンケート)集計結果(中間報告)」のP.16のところに「子どもの遊び場」という部分について集計はさせていただいております。こちら(資料を指して)を見ていただきますと、「子どもの遊び場」の部分については、「大変良い」という評価をされている方が59人、「良い」という評価をされている方が491人、ただ、「悪い」、「大変悪い」という方もいらっしゃいますので、大体二極にわかれているというような結果になっております。</p> <p>その(資料を指して)裏面17ページには、小学校区別の評価を載せさせていただいております。そちらを見ていただきますと、大開小学校区では15.4%の方が大変良い評価をされております。</p> <p>ですので、申し訳ないのですが、先ほど「要旨」の中でご説明させていただきませんでした、「(『くらしと地域福祉に関するアンケート』)中間報告」の中では、取りまとめ、集計はさせていただいております。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>すみません。行政の評価と、アンケートを見せていただいた意見でもよろしいでしょうか。</p> <p>子ども会とか町内会とか、普段の地域での助け合いというのは、アンケートでどう出ているのか、どこからどのようにというのは抽出できないのですけれども、私の感覚からすれば、かなり低下してきていると思います。</p> <p>その部分を補うように、地域福祉でのいろいろな取り組みを進めてきました。子育て支援におきましては、「親子で行き場がない」ということで、子どもの居場所ができ、「近所での助け合いがない」ということでファミリーサポートという制度ができてきました。そういうことが身近にできないから制度ができていう現状があって、そういう制度はどんどん整ってきているけれども、では、一人ひとりの暮らしはよくなっているかといえば、必ずしもそうではないと思います。ですから、これはシーソーのような感じがするのです。</p> <p>では、宇治市としては、本当はどの辺りを目指しているのか、身近な人たちの支え合いがまず充実していったって、でもそれで補えないような重篤なケースに対して制度として補っていくというような方向性を持つのか、町内会等の身近な助け合いはなくなっていくのは仕方がないから、制度として整えていくというようなことをしていくのか、方向性というのは、すごく大事なことだと思っています。私はやはり、身近な人たちが助け合えるようなこと、ますます低下しているようなことに対策をどんどんとっていくということが、まず基本にあって、それでできないことを制度で補っていくというのがいいのではないかと考えています。</p> <p>私の中で気になっているのは、回答しなかった50%という方がどういう層だったのか、回答している人はまだ意識があるけれども、ではどういう人から回答が返ってこなかったのかというところを、できれば併せて出していただきたいと思います。</p> <p>(委員、挙手)</p>



委員長	はい、どうぞ。
委員	<p>いま迫委員がおっしゃったことは、実は私も一番いいかったことで、こういう計画をつくるときに、「地域の助け合いや参加が低下していくのをサービスで補うんだ」、ということがひっくり返した、転倒した議論だということをしっかり打ち出しておく必要があるというように思っております。</p> <p>先ほど少し遠慮がちに申し上げたのですけれども、「どういう地域に目指していくのか」というのがないと駄目なのではないかということを申し上げました。私実は、伏見区と京都市の基本計画に関わっておりまして、そこでは「10年後の伏見区」、「10年後の京都市」というのをみんなで相当議論し合うのです。</p> <p>つまり、いまこういう問題があるから、どう解決していったらよいかという、課題を中心にしたものではなく、「こういう地域をつかっていきたい」というひとつの理念を施行するような形の計画ということであります。</p> <p>先ほどの(行政の)評価では、ほとんどが「B」評価でしたが、その「B」評価の中でも、「参加」がすべての面で低下している、これはまさにデータが示しているわけですが、非常に若い人たちを含めまして参加意欲がどんどん減ってきている、しかも極端な減り方だと思います。なぜ、参加が減ってきているのか、そこについては、例えば作業部会では今後どういう形で議論されていかれるのか、お聞きしたいと思います。</p>
委員長	作業部会委員のどなたに。
委員	作業部会長にお伺いできればと思います。
委員長	(作業部会長に対して)では、よろしく願いいたします。
作業部会長	<p>まだ1回しか委員会を開催しておりませんので、詳しく調査の内容等も、まだ議論しきれれておりませんので、これからみなさんと議論させていただきたいと思っておりますけれども、まずはいろいろな事業のこともそうですが、地域の人たちのいろいろな状況をまずはきっちりと把握して、その上でいろいろできていないことが、出てくると思います。いま委員がおっしゃったように、しっかりと議論していく必要があると思っております。それを踏まえて、どうすれば解決できるのかということを考えていくのがひとつではないかと思っております。こういうことはまだ(作業部会でも)議論はできておりませんけれども、まずそのように思っております。</p> <p>先ほどおっしゃっていただきました、(伏見区、京都市の)10年後のビジョンということなのですが、どちらが先なのかということをお話を聞かせていただいて考えていたところなのですが、「ビジョンをつかってそれに向けてどういう地域をつかっていくのか」というスタンスをとるのか、「いまの現状からそれを解決するためにどうすればよいのか、それによってそこからビジョンを考えるのか」、ということを検討していくことになるのかなと思っております。そのようなところです。</p>
委員	はい、わかりました。
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>他に何かご意見がありましたら、どうぞ。</p> <p>(委員、挙手)</p>

委員	<p>私もしばらく母子保健から外れておりますので、直観的に分からないのですが、先ほど(委員から)ファミリーサポートが進んできていることとか、地域の子育て支援が進んできているとか、サービスは進んできているけれども、などのご意見だったのですけれども、実際にアンケートの中に出ている行政の内部評価資料の22ページのところで「ファミリーサポート(センター運営事業)」を見ますと、行政では「A」評価になっています。「地域子育てひろば支援(事業)」のところでは「B」評価となっています。この行政の評価に対して、委員は評価のずれなどはないのかなど、どのようにお考えかお尋ねしたいと思います。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員長	<p>どうぞ。</p>
委員	<p>実は、この部分に対しては、すごくたくさんいいことがありまして。昨年まではなかったのですが、今年の11月から、子育て支援の「つどいの広場」というのを、宇治市から委託を受けて実施しております。</p> <p>先ほど言われていた(「地域子育てひろば支援事業」の)「B」評価は、たぶん宇治市が、子育て支援やその委託事業のほかに、市民が自主的にする月2回程度の集会所のひろばのことを指して、「B」評価で出ていたと思うのですが、私がもともと子育て支援を始めたのは、子どもが少なくなってきて、近所に子どもがなくて、私も子どもを遊ばせたいという思いがありまして、子育てサークルをつくりました。けれどもサークルで活動しようと思っても、集会所を貸していただけなかったり、公民館を借りられなかったり、そういう現実があって、「なんでだろう」という思いがありまして、いろいろなところに掛け合い、自分たちで活動している間に、NPOにして、行政の委託事業を担うようになったわけです。</p> <p>けれども、もともとは子育てサークルのような、もっと近所のお母さんたちが戯れて成り立っていた世の中が、子育て中のお母さんがわざわざ場を設定して子育てをしないといけない状況になってきたということです。でも、それをまた応援するだけでも支えられていたのだけでも、サポート体制がなく、どんどんお母さんたちが孤立して行って、いつでもどうぞという場所として提供していかなければならない社会になっていったという10年間のスタンスを考えております。</p> <p>実際にその場を担うようになったときに、いかにお母さんたちが心を開かず、孤独でいらっしゃるかというのを、直撃する事態になっております。ですから、この事業を行っていることがいいのかどうか分からないところで事業をやっているという現場の想いを、行政に反映するシステムがないわけです。</p> <p>たとえば委託事業で行っている私たちNPOも、横の繋がりとか、行政がそういうものを返していく会議というものが、まだまったく召集されていない状態です。</p> <p>ですから、おそらくこれを他の方も現場、現場で、「これは本当に充足していると思いますか」と聞かれましたら、たぶん「NO(ノー)」という答えがたくさん出てくると思うのです。</p> <p>行政の評価、実施主体の評価と、住民の評価、アンケートだけでは計り知れない現場の声がありまして、それらを実際に担っている多くの直接の声を聞いているNPOなど(の団体に)、聞かれる機会というのが、子育て支援の分野ではまったくないので、次世代育成の行動計画につきましても、委員にもNPOなどは入っておらず、どういう計画にしたいのかというアンケートやヒアリングもまったくないまま、実際に進んでいくというのが現状です。どうしてこれが協力できないのか、そうしたらその中間の生の声を聞いている、肌で感じている人たちの声をもっと反映しているのではないかと、ということをすごく思うのです。</p>

委員	<p>ですから、私の中で(の評価)は、「A」でも、「B」でもなく、全部「C」ではないかと思うくらい、担っている私もまだまだだと思っています。</p> <p>その辺りで、本当に、みんなが「このまちで暮らしてよかったね」と思えるようなところにはまだまだ至らないのではないかと自分ではそう思っています。</p>
委員長	<p>いかがでしょうか。</p>
委員	<p>大変よくわかりました。</p>
委員長	<p>いま聞いておりました、この個々の住民アンケートだけでなく、やはりNPO含め、組織というか、団体のメンバーの声を聞いてもらいたいということですが、これは各地の地域福祉計画の策定にあたって、やっぱり団体とアリングという形で行っているところがあります。そういうもので勘案していく必要があると思いますので、もちろん計画の策定に関しても、団体とアリングを行政ができるのかどうかということで、作業部会で検討していただければと思っております。</p> <p>可能ならばぜひ、これは行うべきではないかと思えます。</p> <p>行政から何かありますか。</p>
事務局	<p>私の感想になるのですけれども、ずっと福祉の歴史を振り返ってみますと、戦前は当然農業中心でしたけれども、大家族です。その結果、病気になったときに家族では助けられないから、必要なのはお医者さんで、制度が欲しいからということで、国保の前身制度ができたとお伺いしております。</p> <p>戦後、建物が無いなど、救済政策が中心で、制度がいち早くできるのですけれども、普通の一般家庭は世帯主が働いていて、5人家族でも、10人家族でも3世代で食べていけるという、生活水準も高くはなかったと思いますが。</p> <p>ところがいま振り返ってみますと、私の家族は4人家族で標準所帯、子ども2人と夫婦でした。(子どもの)年齢が大差がないもので、大学に行って就職すれば、本人はいないという状態です。以前は子どもだらけでしたが、いまはほとんどいない状態です。盆正月しか帰ってこないという形式に変わっています。</p> <p>標準所帯で夫婦共稼ぎになりますと、保育所が要るとか、学童保育が要るとかそういうニーズになりますし、保育所を増やしてという話になりましたが。</p> <p>いまでは、2人所帯になりまして、もう10年、15年経ったら、どちらかが先立ちますから、一人になるということです。これが大きな部分で流れていまして、これに応じたニーズが段々膨れ上がってきて、しかも忙しい、一人がいいという中で、隣近所のお付き合いができないということになりますので、まさしく希薄です。世の中楽しいのかといえば、決して(そうではなく)、給料は減っていくし、不安も多いし、泥棒も出るし。このようになってきますと、ますます自分が閉じこもって、地域と関係を持たないという、住みづらい地域をつくっているのではないかと、大きな歴史的な流れで、住みづらくなるのを阻止することは難しいですが、ご近所の方で、少なくとも挨拶ができて、お互いの悩みも少々はいえる地域の人が出て、何かあれば助けてあげて、違うことで助けられるような、自分たちの近所は住みやすいような地域に、世の中は不況で住みづらくても、せめてご近所だけは助けやすくというように、考え直さないといけないのではないかと、思います。</p> <p>また、宇治市の場合は、小学校区ごとに学区福祉委員会がございます。そこで、委員も</p>

事務局	<p>おっしゃっていました、どんな学区をつくりたいのか、10年後にはどんな地域にしたいのかということ、学区福祉委員の方々にも改めて考えていただき、また、そのようなヒアリングをすることを通じて、もう一度「どんなことをしよう」とか、「活動を増やそう」とか、「学区福祉委員会に若い人が欲しい」などを通じまして、アンケート結果にもありましたように、若い人はまんざらでもないのですが、その接点や情報交換ができていませんので、そういう人を掴むために、最初の1年、2年はしようというような、NHKの番組でもありましたが、「日本にも、金があれば何でも買えるが、ないのは希望だけだ」ということで、東京大学で希望学会というのがあります。「そこそこの経済力がありながら、なぜ将来希望のない自分の生活なのか」、ということを中心に返りながら、住みよい地域づくりということで、そう考える人が増えれば、それなりの地域力ができてくるのではないかと、思います。そのために、前回の地域福祉計画はばたばたと策定したということですから、ボランティア活動の評価というのは難しいですけども、今回につきましては、学区福祉委員会にも、ひとつひとつの小学校区でどのようにお考えなのか、どのようにしたいのかということとヒアリングできればと思っております。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 他にいかがでしょうか。</p> <p>(委員、挙手)</p> <p>では、どうぞ。</p>
委員	<p>話は変わりますが、学区福祉委員会のことで述べさせていただきたいと思います。 実は学区福祉委員会全体でやらなければならないということが、徐々に増えてきているのです。あれもしないといけない、これももしないといけないというように。直近でいいますと、学校の見守りです。朝もしないといけないし、夕方もしないといけないわけです。また、各施設がいろいろとできておりますけれども、そういったところも面倒見ていかなければならない状態です。やることは徐々に増えてきているけれども、福祉委員の実態は、何度もお聞きになっているかと思いますが、非常に高齢化しております。私は一応菟道第二学区の代表をさせていただいているのですが、高齢ではなく、異常な高齢の状態です。本部の方が80歳に近いわけです。そういう状況の中で運営をしていかなければいけないわけです。</p> <p>私が何をいいたいのかといいますと、各学区、22の福祉委員会の新しい人の募集、団塊世代が退職され、独立されましたから、この機会に(学区福祉委員をお願いしよう)と、いろいろと策を講じておられると思いますが、おそらく実態は、私が福祉委員の代表者会議でいろいろ聞く限りでは、なかなか効果があがっていないということです。</p> <p>学区福祉委員会では、どのような募集をしているのかといいますと、まず私の学区のことだけ申しますが、大体他の学区もよく似ていると思っておりますが、一つは学区ごとにチラシを作成しています。どんな活動をしているのか、そして福祉委員を募集しています、ということで連絡先をAさん、Bさんをお願いします、という大きなチラシを毎年更新でつくっております。たまたま今年度の更新を行っているところでございますが、</p> <p>そして各学区では広報紙をつくっています。我々のところでも年3回発行しております。広報紙はどういうことをしているのかといいますと、全戸配布です。私の菟道第二学区ですと、3,700世帯ほどありますので、3,700枚印刷をして、120人近い学区福祉委員が分担をして、各戸のポストに入れていくようなことをしています。そういったことをやっておりますが、いまのアンケートを聞きますと、「まったく知らない」というのが半分近くですよね。その辺の</p>

委員	<p>中身が知りたいというのが一つです。</p> <p>それともう一つは、各学区の福祉委員会が福祉委員を募集されておりますが、なかなか効果が上がりませんので、一度載せられるかどうか、わかりませんが、聞きたいのですが、市政だよりに載せられるかどうかということです。</p> <p>宇治市の22の学区の組織されたものですので、市政だよりに載せていただいて、全体として福祉委員を募集しています、共通の課題としては、こういうことをしていますよ、ということをつわりやすいように一度実施した方がいいのではないかと考えています。以上、その2点、「まったく知らない」人はどういう人なのか、市政だよりに載らないのかどうか、できたら教えてくださいたいと思います。</p>
委員長	<p>では、事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>そうしましたら、相前後しますけれども、まず、市政だより掲載のことにつきましては、どういう形になるかわかりませんが、前向きに広報課のほうと検討させていただきたいと思っております。確かに委員がおっしゃいますとおり、アンケートの結果にも出ておりますけれども、市政だよりというのは全戸配布ということもありますので、みなさんの目に一番留まりやすい媒体ということから、そういう形で募集できたら、確かにひとつのきっかけにはなりますので、検討させていただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>それからもう一点、「学区福祉委員会をまったく知らない」という回答の方がどういった方なのかということなのですが、年齢別で見ると、若い世代の方が多いです。50代未満の方ですね。たとえば20代の方で、「学区福祉委員会をまったく知らない」という方が73.3%おられます。30代の方ですと69.6%、それから40代の方ですと61.4%ということになっております。50代を超えますと、「まったく知らない」と回答されている方はかなり減っております。50代の方が40.5%、60代の方が39.5%、70代の方は32%、80歳以上の方になりますと23.4%ということになっておりますので、年齢で大きく変わるのかなと思うところ、居住されている年数にもよるのかなと思うところがございます。5年以上、5年未満というところで、大きく数字が変わっているかと思っております。一応クロス集計をさせていただいている部分がありますので、最終的な結果になる前に作業部会の中でもお示しさせていただきますし、この推進委員会の中でもご報告させていただく予定にしております。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>いまいろいろ意見が出された中で、募集するというのはとても難しいと思うのですが、募集するときに、やっていることを連記しただけでは絶対に人は集まらないと思うのです。</p> <p>なぜなら、活動したときに、その人の満足感や達成感が表れないと、人は入ってくれないですね。今日、いま私は、こんな格好で来ましたが、拡大文字の教科書をいまつくっている作業中でした。入ってきた人がほとんど辞めないのです。段々と徐々に作業をしている人が増えています。なぜかという、市の教育委員会との関わりなのですが、教育委員会の方がとても感謝してくれる、教科書がいった先の人たちからお礼の手紙が来る。これはとてもやりがいがあるのです。たぶん学区福祉委員などもそうだし、喜老会の方もそうだと思いますが、連記しただけではたぶん来ないと思います。「喜老会に入ってください、入ってください」といわれていますけれども、実際に見えているのは公園でゲートボールをしていることしか見えなかったりすれば、やりがいがあるのかといえ、「うーん」と(首をかきあげると)というのが</p>

委員	<p>実際ですね。やっていることがみんなに見えること、見えることをもっとみんなにアピールしないと駄目だと私は思うのです。なので、例えば「いま、こんなことをして子どもたちはとっても慕ってくれています」とか、「役に立っています」ということをもっとアピールするチラシをつくるなり、広報するのを、私は提案したいと思います。</p> <p>これはいろいろなところ、どこでもいえることではないか、と思います。</p>
委員	<p>いま、喜老会のことが出ましたので。</p> <p>非常に残念なことに、毎年200人、300人が減っていきます。高齢化が進んでいくということです。また、結構束縛されたくないという方がいらっしゃいます。また、入ったらすぐに役員が回ってきたりするのが困るという話が出ています。</p> <p>いま宇治市に対象の方が55,000人いらっしゃいます。喜老会に入っているのは3,000人をきりまして、7%の加入率なのです。毎年どんどん減っていきます。さびしい限りです。目に見えるような活動内容については「喜老会だより」でどんどん出していいのではないかと行っています。67の喜老会クラブがあり、それぞれ会報をつくっているのですが、それぞれ全戸配布するように進めています。一昨日も、(喜老会に)若手がどんどん入っている兵庫県加古川市の方に視察に行ってきました。そこでは、若手委員をどんどんつくって行って、兵庫県や(加古川)市からどんどん補助金をもらわれて、目に見える格好で活動をされているわけです。</p> <p>私は菟道の方なのですが、毎日一人住まいのお年寄りの安否確認をしています。菟道には21名の一人住まいの高齢者がいらっしゃいます。みんなで手分けして安否確認をしています。(安否確認して)をつけて毎月出しています。</p> <p>また自治会の役員もしております、菟道は旧村地帯で、80歳になっても、90歳になっても、「～ちゃん」で通用するような関係なのです。ですから60歳以上になれば、すべて喜老会に入られます。自治会にも全部入っておられます。</p> <p>先ほど少しJRの話をしましたけれども、私は[仮称]JR菟道駅をつくっていただきたいということで運動をしているのです。私は促進委員会の委員長で、約6,000所帯程度があると思うのですが、黄檗駅と宇治駅の間は2.9キロメートルあり、その間に全然駅がない、その中間点に菟道駅をつくっていただきたい。促進委員会の委員長で、あちらこちら走り回っていますけれども、京都府の方に聞きましたら、「毎日の乗り降りが7,000人なかったら、採算が合わないからそれは難しいかもしれない、でもがんばってやってください。」といわれました。悲願として、9年間その運動を続けています。</p> <p>私たちの喜老会の加入率が7%というのは、非常に寂しいです。宇治市は京都府下で、ワーストワンです。宇治市の場合はサークルの数が多くいろいろ活動する場が多いことや、喜老会に入ってもあまりおもしろくない、魅力があまりないということもあると思いますが、何とか喜老会を魅力あるものにして、加入率を増やしていこうという運動を続けています。以上です。</p> <p>(委員、挙手)</p>
委員	<p>いろいろな団体をヒアリングして、意見を聞いてほしいというのも一つで、私たちは宇治市の肢体障害者協会のお世話をさせていただいておりますが、そこに2級生活訓練で、障害者のスポーツ教室があります。それを地域の学区にも広げてほしいと思います。ということは、障害者がスポーツをいま現在福社会館でやっています。そこは狭いし、限られた人で少ないし、そして各学区から来ていただいています。非常に、足の便が悪いわけです。それよりも地</p>

委員	<p>域の学区で、いま例えば卓球バレーとかやっているのですが、そういうことを地域でやられるようになると、日常生活訓練で卓球バレーというのは結構ゲーム的にもおもしろいし、そういうことが広がっていけば、宇治市でも大会が開くことができたり、おもしろい形の方になると思し、やりがいにもなるし、自分自身の啓蒙にもなるように思うのです。結構人気はあるのです。宇治市としては、私たちのチームが、舞台に行ったり、京都府の市町村対抗で好成績を挙げたりして、結構頑張っており、(他の市町村に対して)リードはしているのです。それが地域に広がってもらえると、もっと大きな組織ができておもしろいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 ご意見があるかと思いますが、時間も参りましたので、次の議題に移らせていただきたいと思しいます。 次第4 その他というところですが、「～今後のスケジュール～」に移らせていただきたいと思しいます。 事務局より、ご説明願しいます。</p>
事務局	<p>それでは次第「4 その他」の「～今後のスケジュール～」というところをご説明させていただきます。 この後、まず、(策定)作業部会ですけれども、年度内中に2回予定させていただいております。一応前回1月15日のときに、みなさんにお集まりいただいておりましたので、年度末ということもあり、日時の方はその時の調整で決定させていただきました。あとは会場ですが、その後調整させていただき、いずれも市役所の会議室を確保できました。 2月12日につきましては、市役所3階の会議室、前回と同じ場所になります。 第3回の作業部会につきましては、3月9日火曜日、午前9時30分から、6階の602会議室で開催させていただき予定になっております。 また、作業部会の委員のみなさんには、ご案内の文章を追って、送付させていただき予定です。 それから、本推進委員会ですが、年度内に第4回の委員会を3月23日火曜日、3連休明けの火曜日になりますが、午前10時から、同じくこの会場、8階大会議室で開催させていただきたいと考えております。 今後のスケジュールについては以上です。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 いまの事務局からの提案でございますが、(みなさん)よろしいでしょうか。  (特に、意見なし)  事務局より、他に何かありますでしょうか。 よろしいでしょうか。  ありがとうございました。  ちょうど4時になりましたので、長時間に渡りまして、自己評価、あるいはアンケートに関して非常に積極的にご意見、ご論議を展開していただきました。</p>

委員長	以上をもちまして、終了させていただきたいと思います。 どうもありがとうございました。
	終了